

創立72周年  
令和4年度 6月号



# 咲かせよう大正の花

# つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



## 心を育てる

園長 北村 恵

正門右横の桜に今年も可愛い赤い実が付き、うさぎ組の子供たちは、落ちて実を集めることを楽しんでます。木が高くて実をとることが難しいのですが、とても甘くておいしい実なので、小鳥がペアでやってきて仲良く一つの実をつついてる姿を見ることができます。小鳥に気付いた子供たちが「仲良しだね」「友達なのかな？」と思ったことをつぶやいています。

台東区の教育施策の一つに『心の教育』が挙げられていますが、幼稚園でもそのことを大切にしています。「言われたから、怒られるから、仕方なく」やるのではなく、「やりたい、楽しい、今やらなければあとで困る」などの気持ちや必要感で動けることを目指して援助しています。

遊んだ後の片付けの時間を例にすると、3歳児では片付けも遊びの一環の楽しい時間となるように、宅急便やさんごっこと称して落ちておもちゃを拾い集めてきてもらったり、ままごとコーナーの前に先生が座っておもちゃを手渡してもらったりし、「ありがとう、助かるなあ」と一人一人に声をかけて先生との関わりを楽しんだり、3歳児なりの役立ち感を得たりできるようにします。

4歳児になると「片付けが終わったら広くなった場所でダンスをしよう」や「きれいな場所で制作をしよう」などの活動の見通しを伝えて、何のために片付けるのかが分かるようにしていきます。次の、活動に移る前には「広がって嬉しいね」や「きれいになって気持ちいいね」という言葉も丁寧にかけしていきます。また、たくさん遊具を出して時間がかかっている幼児には「誰かに手伝ってもらおうか？」と聞いたり傍にいる幼児に「手伝ってあげる？」と声をかけたりします。次第に自分たちでも、友達に「手伝って」や「手伝おうか」という言葉が出るようになり、みんなで力を合わせて片付けるようになっていきます。

片付けの必要感も片付いた後の気持ちよさも分かってきた5歳児には、朝の会で一日のスケジュールを伝え、時計を使って片付けの終了時間を「長い針が〇まで来るまでに片付けを終わる」と知らせます。時計を見て、友達同士でも「そろそろ片付ける？」と声をかけられるようにしていきます。それでも、なかなか見通しがもてなかったり、ちょうどその時間ぐらいに遊びが盛り上がりしてしまうこともあります。そんな時には先生との相談が始まります。「あとここまで作ってから片付けてもいい？」「明日も続きにしたいからこれはとっておいてもいい？」など、自分の考えを言葉で先生に伝えながら、自分で遊びの区切りをつけていきます。『片付ける』という行為一つにもたくさんの心の成長があります。子供は大人の行動や言葉に影響を受けて成長しています。私たち大人も子供の気持ちを丁寧に受け止め寄り添っていきながら「やりたい・できた・嬉しい」などの気持ちや必要感を育てていきたいと思えます。